

# 御同朋総結集に向けて

## 北摂組の取り組み方

宗門の教化推進運動として兵庫教区では、「各組の体質改善」と「各組活動の活性化」を目標として、「組変更」が行われ、寺院も教化団体も時代に生き抜くべく運動が展開されています。そしてその集大成として、来る十一月七日(水)、神戸の

ワールド記念ホールで、「教区御同朋総結集大会」を開催することになりました。北摂組としまして、その大会の主旨を浸透すべく、「北摂組御同朋総結集大会」を七月に開催する予定になっています。

来る三月十三日、火曜日午後三時より青年僧侶の会主催で研鑽事業として特別講演会が開催されます。講師は上田義文師(文学博士) 講題は「親鸞と今の時代」参加費は一人千円(当日受付)で僧侶、門信徒を対象としております。

## 上田義文師 13日に講演会

青年僧侶の会主催

会報十七号に掲載の光森宣明組長の年頭あいさつから

生前のご苦労を偲び 謹んで敬申の意を表します。(敬称略)

新宮組心光寺前坊守	内海ツヤエ	1月26日	89才
「光壽院釈尼純祥」			
北摂組興徳寺住職	堀内 恵弘	1月27日	83才
「真教院釈恵弘」			
多紀組金剛寺住職	北村 昌榮	2月3日	74才
「慈光院釈昌榮」			

たからではないでしょうか。かという事を皆さんと上田であればこそ、厭機欣浄の宗教実践が呼び起こされてくるのでしょうか。我々が、基幹運動を推進していく念仏者として、宗祖は時代をどう捉えられた

## 「法」を配って下さい。

年間を通して春彼岸とお盆、報恩講の時期には「法」の残部がまだありますので、ご利用の方は教務所までお申し込み下さい。

なお、先月号といっしょに発行しました「お彼岸号」の残部がまだありますので、ご利用の方は教務所までお申し込み下さい。

料金は一部十五円で部部以上は題字の横に寺号を印刷します。(事務局)



各寺の寺号を印刷した「法」

3月1日(水)	基推委常任・企画会議	10時半	
	結集大会常任委員会	1時	
2日(金)	常備会	10時半	
6日(火)	青僧会・推進員街頭伝道	10時半	明石駅前
7日(水)	別院仏婦常例	1時半	石田保孝師(朝来組教徳寺)
8日(木)	教区仏婦委員総会	10時半	
	都市開教		足利孝之師(阪神東組安養寺)
9日(金)~10日(土)	豊岡教室永代経		宇野行信師(大阪教区)
10日(土)~11日(日)	教区仏壯大谷本廟一泊研修会		
12日(月)	結集大会準備委員会総会	10時半	
13日(火)	青僧会講演会	3時	上田義文師「親鸞と今の時代」
14日(水)~16日(金)	別院常例	1時半	那須野浄英師(滋賀教区)
19日(月)	組長会	10時半	
20日(火)~22日(木)	別院彼岸会	1時半	西脇正文師(揖尾西組超念寺)
26日(月)	寺族婦人連続学習会	10時	
26日(月)~27日(火)	青少年国際研修団研修会		
29日(木)	世界仏婦大会説明会	1時	

## 教区だより

### 3月

# 五師迎え熱心に聴聞

## お待ち受け教区布教大会

本願寺第十一代顕如宗主四百回忌法要・寺基京都移転四百年記念法要お待ち受け兵庫教区布教大会が二月二十一日に神戸別院で開催された。

の内より三人が、また京都教区より杉本堅正師(天何組専福寺)大阪より寺廣映嗣師(榎並組心宗寺)の五人が出講された。

本願寺移転の歴史と顕如上人のご遺徳、また教書のお心を体して基幹運動を推進する布教が各四十分の持ち時間で午前十時から昼食をはさんで午後四時前まで熱心に続けられた。

開会にあたって小滝教務所長より「昨日も四百年を記念した大谷本廟の新無量寿堂の竣工式に参って来たところだ。これもお待ち受けの一つの行事であり意義深いことです。しかし、教団のいのちはお念仏の教えに遇うことが何をおいても大事なことであります。

この布教大会をご縁に

# HIO YOG 教区新報

1990. 3. 32号

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所  
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号  
(本願寺神戸別院内)  
電話 神戸(078)341-5949(代)  
【編集】教区基推委広報部



真宗の心を説かれる大西師

人でも多くの方々がおみの方に遇っていただくよう念願しております。」

教区を代表された三人の方々のお話を少しだけ紹介すると.....

寺田寛了師(揖尾西組浄教寺)は、光りが強いほど影がわかる。曇っておれば影はわかりにくい。仏の教えを光りにたとえてあるが、教えの光りに遇うことによって自分が知らされていくのである。

仏の教えに遇わないと一生愚痴で終わるのである。教えに遇って、あれもこれも、このお念仏に遇わせていただくご縁であったと世界がひらけてくるのです。そのご縁に遇うことが生死いづべき道と教書に教えて下されてあります。

山崎一朗師(出石組正福寺)は、教書に「宗教は、人間のかかえている究極的な問題、すなわち、老病死の苦悩の解決にかかわるものであります」と示してあります。

すべての人がいきあたりねばならない問題として老

病死がある。しかし、老いを解決するとか、病を解決する、死を解決するとかではなく、それを苦しみと受け取る私がいる。

老いたり、病んだり、死ぬことを苦しみと受け取る私がいること、その私を問題にするのです。

大西龍雲師(六栗組教専寺)は、信心とは自分の心でつくっていくという宗教が多いが、信心とは如来の心であり信心をいただくことは、如来様のお心をいただくことであり、それが真宗です。

明年の四月と五月に厳修される法要には繰り合わせ何をおいても、ぜひご本山にお参り下さいと、大西副団長が引き続き挨拶をして閉会した。

昭和六十二年の一月にご門主が發布された四百年法要のご消息を受けて総局巡回による教区のご消息披露のおり、「一日も早く隣接地の借財を返済したい」と言われた総長の言葉に対して、質問に立たれたご門徒の一人が「喜んで協力させてもらいます。ただ、お金を集めて終わつたというだけの法要とならないように願っております。」との発言を思い出します。

長い伝統の中で形式に流れようとする昨今、門徒があるべき姿を求めみ教を生きる糧となるように、伝道のあり方を考えなければならぬ。宗教に対して無関心型、全面否定型、意志表示できない傍観型、最後の数が寺参り、連続研修講座は宗門あげての門信徒会運動であり、参加者に浄土真宗の門徒として自信と誇りをもつ門徒に育つて頂くことである。現代における既成宗教離れを、個人(現代人)家族(核家族)地域(都市化)三つの側面から見て、久しい歴史のなつながらで今も多くの先祖の宗教、家の宗教として仏教ととけ合った生活風俗文化の外に出ることが出来ない門徒にとって心のふるさとであり、歴史的伝統の母胎がある。経済的發展と夢の実現で家庭全てがまかなえない人間の情緒がなくなつた。物で栄え心でおとろえて行く不安の時代、仏性の忘却無仏の時代にまず先祖が残した宗教的遺産に参加して頂き、門徒として育成の訓練を受けて頂くことである。

(堀 孝文)



平成二年度より組連研も第七期となり、六期まで毎期二十人ちかい終了者を送り出してあります。

しかし、その終了者に対象とした大谷での中央教修に進んでいただいた終了者はわずかに二パーセントにもみえない数で、教区の門徒推進員は現在百六十二名の登録にすぎません。

教区では現在、門徒推進員連絡協議会として研修会や統一掲示伝道などを進めております。その一つとして、平成一年十二月末に活動報告書の提出があり、今回は四十六人から報告がありました。

活動の上で感じたこと、困ったことや教区への要望を拾うと、次の通りです。  
【活動の上で感じた事、困った事等】

◇若婦例会で「ご縁に会うことの大切さ」ということからも、常例会を持つことは、その機会です。出席が多い、少ないと責任を感じることはありません「子育て、またただの中のお母さんの入会がせつなる願いです、現実には思うにまかせません。子、娘、嫁、姑が仏縁に会

## ご住職の熱意を 中央教修の60歳 定年は早すぎる

を進めても受ける人が少ない。◇住職が熱心なので推進員が手助けするような事がなくてこまっています。◇花まつりの日に初参式を行っていましたが、住職から初参式は団体であるものではなく個々に参るべきだと言われ、本年は取り止め

う下地づくりの責任の重さを痛感いたします」  
◇あまりにも参加が少ない事に問題があるのでは。◇組内に推進員が少ないため活動しにくい。中央教修に自分の説得力の未熟さなど、考えている事の何分の一も達成できないのが残念である。  
◇初対面の人に「貴方の宗教は」と尋ねて、はつきり答えられる人が少ない。  
◇連研に参加しても初めは多数ですが、終わりに頃は少なくなっていく。  
◇門徒の大半が先祖崇拜信仰であるとの思想が非常に強い、一向宗と想っている人が多い。  
◇遠方の寺の研修会では車しかなく、交通の確保が大変である。  
◇若い人の寺へのお参りが少なく、誘ってもなかなか集まってくれない。  
◇親戚、縁者の仏教に対する無知の恐ろしさ、自分の力のなさを痛感。  
◇住職の理解と熱意を望む。教区内全組に推進員が来て欲しい。  
◇行事を決めても、人数集めが大変である。  
【本山、教区への要望、意見】  
◇本山へ、推進員の的確な現状把握のため実態調査の実施。教区へ、推進員の数が年々増えるが、数よりも質のめんから組連研に参加する時点より配慮をして欲しい。  
◇研修会等参加したいが、勤務の上から出来ない事をご理解頂きたい。  
◇施本等毎年本山から出版されるが、もっと近くで見られるようにしては、組の推進員で何冊か置いて回覧するのもよいでしょう。  
◇人生八十年時代、中央教修六十才までは早すぎます。定年後のゆとりの時間を十分に活用できる八十まで参加できるようにして欲しい。  
◇各寺の住職さんは、せめて法事の際は仏事の意義をしっかりと声を大にして言い続けて欲しい。そのように本山、教区も指導を。  
【教区推進員協議会への要望、意見】  
◇もっと門徒推進員としての自覚を持ってもらいたい。時間厳守を守って欲しい。  
◇教区の推進員相互の連携のため具体策の検討と実施。  
◇遠い所へは行けないので、もっと多く研修会を開いて欲しい。仏仕の様に式章を作る。  
◇役員会も開催日によっては人数が少なく寂しい。  
◇教区内を大きく分けて、参加し易く、横のつながりが欲しい。各組で会を組織し、三、五組で研修会をしたり交流を深めたりしては

## 私自身の問題

組の同朋講座に参加して

組に於て開催されている同朋講座に参加して私なりに感じた事を書かせていただきます。同朋講座は宗門に於て推進されている基幹運動の一貫として開かれておりと理解しております。  
この講座に参加して、この世に生を受けたものとして、他の何物でもない私自身の中身の問題である事を再確認いたしました。  
親鸞聖人が御消息に「とも同朋」とか「同行」という形でおっしゃっていらっしゃるのには、私の側から我々をみた時に、我々は皆仏子であること、また「南無阿弥陀仏」をいただく我々の信心は皆平等であることだと理解いたしております。とになる。

## 寺報から

決勝点が見えぬ  
妙道寺の掲示板  
九死に一生を得るとか、愛する人と死別するとか。そんな大きなショックは、人間が生まれ変わるチャンスである。それがなければ、実はショックでなかったことになる。

人生と言うのは、決勝点の見えないレースをしているようなものである。ラストスパートを、いつかたらいの、わからないまま死んでいくのは悲しいことである。  
(赤穂南組・妙道寺 季報第四十二号)

## ビハラー研修に300人

### HOPE

◇1月24日 教化センター協議会。教化センター構想について  
◇25日 淡路組住職寺族同朋講座を真光寺で開催。教区派遣講師は山崎一朗師  
◇養父組同朋講座を八鹿町みふね会館。講師は松島法城師  
◇同兵宗連研修会を神戸人権会館  
◇勤式練習。講師は光森龍樹師で讃仏偈作法  
◇27日 揖尾東組同朋講座を正覚寺。講師は西脇修師  
◇27日 28日 第三連区推進員研修協議会を名古屋別院。兵庫の推進員からは七人が参加し、組における門徒推進員の活動や神仏の問題について研修  
◇28日 氷上西組同朋講座を正福寺。講師は山崎一朗師  
◇スカウト指導者研修会を別院。講師は西脇修師で他

頭伝道その他  
◇2月2日 教区基推委研修並びに同専門委員会。午前は基幹運動推進と組基推委での組相談員の任務などについて中央相談員の富永真哉師よりの講義と質疑、午後は三専門委員会に分かれての分科会と全体会。話し合いの中で「すぐに体質改善と言われが、教団の理想像、目標が本願寺で出されなくては

ならない。目標の再確認が必要」「教団を支えているのは何か、祖先崇拜ではないのか」「思想の統一、方向性がいまいちなのが問題なので」「等々、考えさせられる発言もあった  
◇3日 神明組同朋講座を専福寺。講師は藤田真哲師  
◇神戸地区仏仕研修会を別院で、講師は足利孝之師  
◇4日 北摂組同朋講座を廣宣寺。講

師は和田智浄師  
◇教区仏仕理事會。大谷一泊研修会と五月六日に東播地区が担当で第十六回大会を社町体育センターで開催の予定となった  
◇5日 網干組同朋講座を網干市民センターで。講師は和田智浄師  
◇多紀組金剛寺住職様の葬儀に本山よりの達書伝達に教務所長出席  
◇6日 7日 第三連区推進専従員研修会を京都緑風社で開催  
◇7日 本山で如月忌法要。別院仏婦も三十五人がバスで団参  
◇8日 教区の都市開教が主催で阪神北組名寺で公開講演。講師は足利孝之師で講演は「タタリがあるパチがあたるを信じていますか」新聞オリコミで知った参加者が大半で「次もご案内下さいね」と言われる人も多かった  
◇9日 神明組同朋講座を金覚寺。講師は藤栄行信師  
◇10日 姫路中組同朋講座を蓮浄寺。講師は和田智浄師  
◇別院本堂で仏前結婚式。新婚が滋賀県の大谷派の寺院出身でこの縁となった  
◇11日 氷上西組同朋講座を市辺の明光寺。講師は松島法城師  
◇第三連区仏仕連絡協議会を滋賀の

琵琶湖ホテルで。組連盟の充実などについて話し合う  
◇13日 少年スタッフ会議。四月三日開催のこどもの集い打ち合わせ  
◇13日 14日 近畿仏婦推進懇談会を京都教区担当で開催。活動推進の問題点など  
◇14日 16日 別院常例。講師は佐々木大観師(六栗組西願寺)法座終了後講師に教義について尋ねる熱心なご門徒さんもおられました  
◇15日 近同推第二十七回総会を京都緑風社で。次年度の事業計画と予算その他  
◇16日 結集大会総会庶務部会議。進行、設備、アトラクションなどの大会プログラム案について  
◇組長プログラム長と活動報告書など  
◇18日 多紀組同朋講座を光専寺。講師は山崎一朗師  
◇教区仏青役員会。教区連盟の組織を充実すること  
◇19日 20日 教区総代会一泊研修会を神戸の舞子ビラで五十六人が参加。門徒総代としての取り組みや役割などについて西池哲俊師(出石組勝林寺)からの問題提起、分科会や懇親会などもたれ

た  
◇20日 保育連盟役員会。四月二十一日に兵庫が担当で本山にて開催される近畿ブロック保育新任研修・補任式のことなど  
◇21日 頭如宗主・寺基移転四百年お待ち受け布教大会を別院で。教区より三人と他教区より二人の布教使が出講された  
◇養父組同朋講座を八鹿町みふね会館。講師は松島法城師  
◇赤穂南組同朋講座を長専寺。講師は赤松賢秀師  
◇22日 第二回ビハラー研修会。当日は三百人も参加者で別院本堂も狭く感じられました。「なにもあなたたちは僧侶でなくても、坊守でなくでも、そうである前に人間であることが大切でしょう」「今度またくるからね、元氣だしよ」の一言はだれだつていえます。歌じゃないけれど「そばにいてくれるだけでいい」です、この人がそばにいてくれたら死んでいける。それが救いであり、ビハラーではないですか」と別院本堂の舞台いっぱいをつかったパフォーマン(総合人間研究所々長)のお話に参加者全員時間を忘れるほど真剣に聞き入っていました。



身ぶり手ぶりをまじえて話される早川一光先生

## 「方向性がいまい」

組に於て開催されている同朋講座に参加して私なりに感じた事を書かせていただきます。同朋講座は宗門に於て推進されている基幹運動の一貫として開かれておりと理解しております。  
この講座に参加して、この世に生を受けたものとして、他の何物でもない私自身の中身の問題である事を再確認いたしました。  
親鸞聖人が御消息に「とも同朋」とか「同行」という形でおっしゃっていらっしゃるのには、私の側から我々をみた時に、我々は皆仏子であること、また「南無阿弥陀仏」をいただく我々の信心は皆平等であることだと理解いたしております。とになる。